

授業科目	*成人看護学演習				実務家教員担当科目	○	
単位	2	履修	必修	開講年次	3	開講時期	前期
担当教員	高橋 甲枝、中原 智美、財津 倫子、原 頼子						
授業概要	<p>急性期あるいは慢性期医療を担う施設において、臨床看護師としての実務家経験を有し、さらに臨地実習指導経験をもとに講義・演習を行います。</p> <p>本科目は2コマ続きで、反転授業にて演習を行います。</p> <p>1. 健康障害を抱えた成人期にある患者・家族に対し、療養生活を支援するために模擬患者情報を用いた看護過程を展開し、看護上の問題解決の手法と看護実践について演習します。</p> <p>反転授業とし主体的な協同学習活動で進めます。</p> <p>2. 成人期における療養生活を支援するための生活援助技術、診療補助技術、セルフケア確立技術等の基本的看護技術について演習します。</p>						
授業形態	講義、演習	授業方法	反転授業、グループワーク、プレゼンテーション、Classroom（課題のコメントを行い自己学習支援）				
学生が達成すべき行動目標							
標準的レベル	<p>【看護過程】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 模擬患者の疾病に関連する基盤的知識を述べるができる(DP1-2, 2-1) 2. 事例に関心・意欲を持ち看護過程の展開ができる(DP3-1, 3-2, 4-1) 3. 模擬患者情報を枠組みを用いて全人的に捉える(DP2-1) 4. 健康問題に対する個別性のある看護計画を立案できる(DP2-1) 5. 経過に基づいてSOAPを記述し患者の状況を評価できる(DP2-1) 6. 協同学習におけるグループメンバーとして責任ある行動がとれる(DP4-1) <p>【看護技術】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 課題となる援助技術を患者の安全・安楽をふまえて実施できる(DP2-1, 4-2) 2. 患者を尊重した対処行動がとれる(DP2-1, 4-2) 						
理想的レベル	主体的に学習し、看護過程に関する目標6項目と技術演習に関する目標2項目を80%以上達成している。						
評価方法・評価割合							
評価方法	評価割合(数値)				備考		
試験							
小テスト	30%				慢性期看護過程、急性期看護過程の2回実施する		
レポート	40%				看護過程ファイル		
発表(口頭、プレゼンテーション)	05%				肝硬変事例への教育		
レポート外の提出物							
その他	25%				看護技術課題、技術チェックなど		
カリキュラムマップ(該当DP)・ナンバリング							

DP1	-	DP2	○	DP3	○	DP4	○	DP5	○	ナンバリング	NU31314J
学習課題（予習・復習）										1回の学習目安 (時間)	
看護課程の演習課題および技術演習の課題はその都度説明を行う										1	
授業計画											
第1回	オリエンテーション 演習概要説明 看護過程（肝硬変）①（担当：全教員） ・初回オリエンテーション（高橋） ・課題の解説と説明（高橋） ・アセスメントの検討										
第2回	看護過程（肝硬変）①（全教員） ・アセスメントの検討										
第3回	看護過程（肝硬変）②（担当：全教員） ・アセスメントの検討										
第4回	看護過程（肝硬変）②（担当：全教員） ・アセスメントの検討 ・説明（中原）										
第5回	看護過程（肝硬変）③（担当：全教員） 解説と説明（中原） ・全体像 ・統合の過程										
第6回	看護過程（肝硬変）③（全教員） ・全体像 ・統合の過程 ・看護問題の明確化 ・問題リスト										
第7回	看護過程（肝硬変）④（担当：全教員） 解説と説明（中原） ・看護目標設定 ・看護計画立案										
第8回	看護過程（肝硬変）④（担当：全教員） 発表、発表後の修正 ・看護目標設定 ・看護計画立案										
第9回	看護過程（肝硬変）⑤（担当：全教員） ・まとめ（中原） ・質疑応答										
第10回	看護過程（肝硬変）⑤（担当：全教員） 看護実践への準備										

第11回	看護技術演習（担当：外部講師、高橋、財津、中原） ストーマ造設した患者の看護①*
第12回	看護技術演習（担当：高橋、財津、中原） ストーマ造設した患者の看護②*
第13回	看護技術演習（担当：全教員） A・Bの2グループに分かれ演習 A：技術演習（手術直後の観察・援助） B：肝硬変事例への教育
第14回	看護技術演習（担当：全教員） A・Bの2グループに分かれ演習 A：技術演習（手術直後の観察・援助） B：肝硬変事例への教育
第15回	看護技術演習（担当：全教員） A・Bの2グループに分かれ演習 A：肝硬変事例への教育 B：技術演習（手術直後の観察・援助）
第16回	看護技術演習（担当：全教員） A・Bの2グループに分かれ演習 A：肝硬変事例への教育 B：技術演習（手術直後の観察・援助）
第17回	看護技術演習（担当：全教員） A・Bの2グループに分かれ演習 A：技術演習（手術直後の観察・援助）チェック・リフレクション B：血糖自己測定・インスリン自己注射
第18回	看護技術演習（担当：全教員） A・Bの2グループに分かれ演習 A：技術演習（手術直後の観察・援助）チェック・リフレクション B：血糖自己測定・インスリン自己注射
第19回	看護技術演習（担当：全教員） A・Bの2グループに分かれ演習 A：血糖自己測定・インスリン自己注射 B：技術演習（手術直後の観察・援助）チェック・リフレクション
第20回	看護技術演習（担当：全教員） A・Bの2グループに分かれ演習 A：血糖自己測定・インスリン自己注射 B：技術演習（手術直後の観察・援助）チェック・リフレクション
第21回	看護過程（胃がん）①（担当：全教員） 解説と説明（財津） ・データベースとアセスメントの検討 ・全体像

第22回	看護過程（胃がん）①（担当：全教員） ・データベースとアセスメントの検討 ・全体像
第23回	看護過程（胃がん）②（担当：全教員） 解説と説明（財津） ・統合の過程 ・看護問題の明確化 ・問題リスト ・看護計画
第24回	看護過程（胃がん）②（担当：全教員） ・統合の過程 ・看護問題の明確化 ・問題リスト ・看護計画 ・経過記録・評価日評価 説明
第25回	看護過程（胃がん）③（担当：全教員） ・その後の事例 経過記録・評価日評価 解説と説明（財津）
第26回	看護過程（胃がん）③（担当：全教員） ・その後の事例 経過記録・評価日評価
第27回	A・Bの2グループに分かれ演習 （担当：全教員） A 看護過程（胃がん）④ まとめ B 手術後の援助（清潔ケア・離床）
第28回	A・Bの2グループに分かれ演習 （担当：全教員） A 看護過程（胃がん）④ まとめ B 手術後の援助（清潔ケア・離床）
第29回	A・Bの2グループに分かれ演習 （担当：全教員） A 手術後の援助（清潔ケア・離床） B 看護過程（胃がん）④ まとめ
第30回	A・Bの2グループに分かれ演習 （担当：全教員） A 手術後の援助（清潔ケア・離床） B 看護過程（胃がん）④ まとめ
テキスト	永田明、石井ふみよ（監）：看護がみえる vol.4 看護過程の展開 メディックメディア リンダJ. カルペニート：看護診断ハンドブック第12版 医学書院 医学書院 系統看護学講座 消化器 医学書院 系統看護学講座 臨床外科看護総論

	<p>基礎看護学演習（看護過程）、形態機能学、疾病各論、薬理学、看護のための臨床検査、成人看護学概論、成人慢性期看護方法論、成人急性期看護方法論で学んだ既習の知識及び生活・診療援助技術の確認。必要なテキスト・資料類は授業に持参してください。</p>
<p>参考図書・教材/データベース・雑誌等の紹介</p>	<p>成人看護学概論、成人慢性期看護方法論および成人急性期看護方法論で用いた教科書・資料 マジョリー・ゴードン著、江川隆子訳：ゴードン博士の看護診断アセスメント指針 照林社 臨床検査学、薬学、疾病学、形態機能学、基礎看護学等に関連する図書・資料</p>
<p>課題に対するフィードバックの方法</p>	<p>毎回の課題提出と小テストは全体に対してコメントを行います。 成績発表後に分布図を掲示します。</p>
<p>学生へのメッセージ・コメント</p>	<p>演習内容の詳細については、別途資料を配布します。 反転授業を行います。毎回、グループワークの前準備として、個人ワークの課題を出します。グループワークに効果的に参加するために既習の科目や関連図書を参考にして準備をしましょう。 技術については、事前に動画視聴を行い、演習に臨みましょう。講義内で指示します。 手術直後の観察・援助の技術チェックを行います。「手術直後の観察・援助」の演習後に助教・助手室で実習室を予約し主体的に練習をしましょう。 *11、12回「ストーマ造設した患者の看護」は、外部講師の予定、実習室の空き状況により進行順を変更、補講日に開講する可能性があります。</p>

